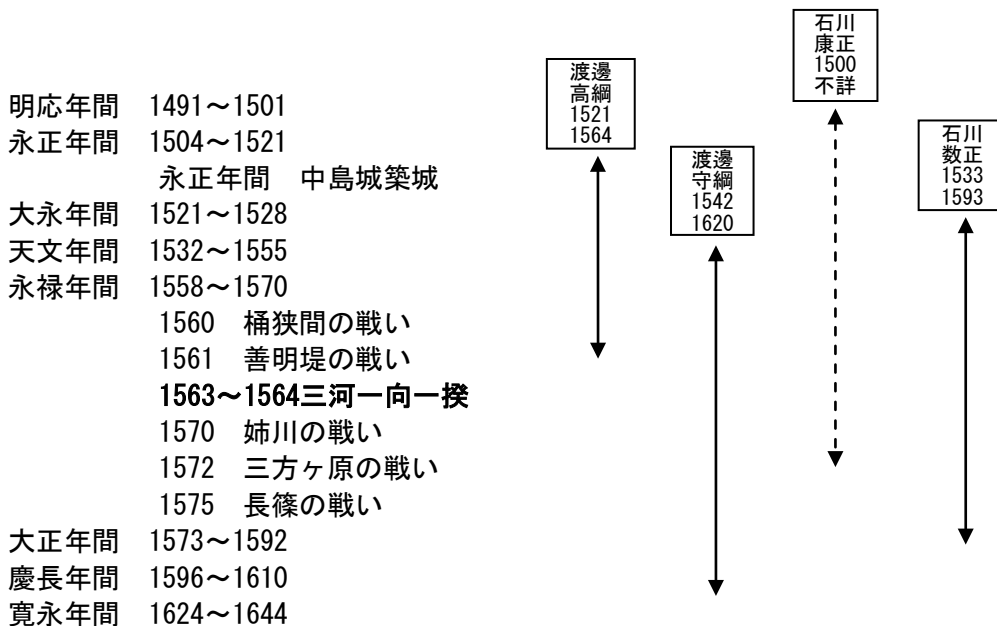


## 三河一向一揆

1563（永禄6）年9月、松平家康の命を受けた菅沼定顕が浄土真宗本願寺系列寺院である上宮寺から糧米を強制徴収したことから一向宗徒が蜂起したと言われている。しかし、菅沼定顕という家臣の実在が不詳のため、西尾城主の酒井正親が坊主を捕縛したことがきっかけとなって一揆が起こったともいわれているが、どちらにしろ、松平氏は西三河を平定し、今川氏の領土である東三河方面に進軍するため、農民からの納貢米に加えて、これを寺院にも適用したといえる。

三河の本願寺教団は、松平広忠から与えられた不入りの特権（検断権の拒否である年貢・諸役の免税）を元に寺内町を形成し、寺内から取り立てた諸税を本願寺に上納したり、松平家臣に貸し付けたりしていたため、三河統一を目指す家康としては、必然的に解体を計らねばならぬ存在だった。三河一向一揆は、三河の3つの寺（宮寺・本証寺・勝鬘寺）に集結した門徒衆と、これに呼応した吉良氏・荒川氏・桜井松平氏・大草松平氏などの在地領主を始め、家臣の渡邊高綱、渡邊守綱、酒井忠尚や夏目吉信らが家康に反抗の姿勢を構えた。また、鳥居・石川（康正）・本多・内藤の一門衆からも一揆側に走るものが多く出たため家康は苦戦したが、上宮寺に鳥居氏、勝鬘寺に大久保氏、本証寺に藤井松平氏、西尾城に酒井正親を配置して対抗した。

1564（永禄7）年、上和田の戦いで敗れた家康は山中八幡宮にある鳩ヶ窟に身を隠して一揆軍の探索を逃れるという危機にも直面したが、戦が長引くにつれて家康に降伏してくる者が続出し、吉良氏・荒川氏といった反抗在地領主は三河から退去。一揆後、家康は一揆に加担した多くの家臣を許したが、一向宗は禁止され、教団は解体された。



### 【松平広忠（1526～1549）】

松平広忠（まつだいら ひろただ）は、戦国時代の武将。三河国額田郡岡崎城主。松平宗家8代当主。松平清康の子。徳川家康の父。1549（天文18）年3月6日、24歳で死去。

### 【酒井忠尚（生没年未詳）】

酒井忠尚（さかい ただなお）は、戦国時代の武将。松平氏（徳川氏）の家臣で、三河上野城主である。通称は将監。酒井康忠の子で、酒井忠次の叔父にあたるといわれているが、関係などは諸説あって定かではない。松平広忠の時代から松平氏に仕えた重臣であり、松平広忠没後は松平元康（徳川家康）に仕えたが、自立傾向が強くて松平氏から離反することも少なくなかった。1563（永禄6）年の三河一向一揆でも、一揆方に与して家康に反逆し、上野城に籠城した。しかし一揆

が鎮圧されると家康の追討を受けた忠尚は、上野城から逃亡して駿河に逃れたといわれ、その後の行方は不明である。

**[夏目吉信 (1518 (?) ~1573) ]**

夏目吉信(なつめ よしのぶ/きちのぶ)は、戦国時代の武将。三河松平氏、徳川氏の家臣。通称、次郎左衛門で別名は正吉。清和源氏満快流を祖とする夏目氏の当主夏目吉久の子。夏目氏は古くから松平(徳川)氏に仕え、1562(永禄5)年の三州八幡合戦のおりには、今川軍の攻撃で家康方が総崩れになったとき、しんがりを務め、国府までの間、6度踏み止まり奮戦したという。後に家康から軍労を賞され備前長光作の脇差を賜った。ところが、1563(永禄6)年に三河一向一揆が起こると一揆側に加担し、六栗城(野羽城との説も)に籠って松平家康に叛いて敵対した。しかし、ともに戦っていた乙部八兵衛という者の内通により松平伊忠に捕らわれたが、伊忠の嘆願により家康に許され帰参を果たした。1573(元亀3)年の三方ヶ原の戦いの際、家臣が止めるの間かず決死の突撃をしようとする家康を逃がすべく、家康の兜と馬を以って武田勢に突入。身代わりとなって戦死した。



勝鬘寺 20150818

勝鬘寺：岡崎市針崎町朱印地3



渡邊高綱の墓  
20150818



本項は以下の資料を引用している。

**[わたしたちのふるさと 六ツ南 114 選]**

- 監修者 総代会長 平井 良美  
社教委員長 近藤 武美
- 著者 岡崎市立六ツ美南部小学校 6 年児童 114 名  
(平成 25 年 3 月 19 日卒業)
- 編者 岡崎市立六ツ美南部小学校 6 年担任  
権田 康成、加納 隆、坂井 純、榊原 美佐子、山本 佳愛
- 発行日 2013 (平成 25) 年 3 月 1 日 初版発行
- 印刷所 ブラザー印刷株式会社
- 製本 ブラザー印刷株式会社
- 発行 岡崎市立六ツ美南部小学校